県立広島病院広報誌
もみじ
第37号
2012.3.1
発行

県立広島病院　〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 （URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

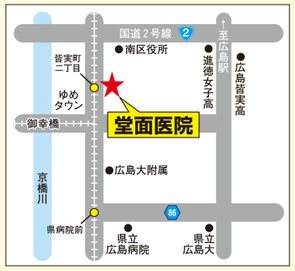
理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

連携医院のご紹介

今回は、診療では常に「プロフェッショナル」に徹し、「『接遇』は見かけだおし」とおっしゃる 堂面医院　堂面先生 です。

堂面医院

〒734-0007
広島市南区皆実町3丁目4-34
電　話／082-251-1510
院　長／堂面 政俊
診療科／内科、麻酔科、小児科



○いつ開業されましたか。

昭和37年に父が現在地で開業しました。平成14年に私が父から引継ぎました。今年は当院が開業して50年、私が引継いで10年という、節目の年となっております。

○堂面先生が診療において大切にされていることは何ですか。

自分の力量を超えない範囲でプロフェッショナルに徹することです。また、地域の方々から信頼され、気持ちが通じ合える関係を築くことです。

患者さんにとって、身近に何でも相談できて、総合的な医療を提供してくれる、よろず相談所のような存在を目指しております。

○堂面先生がおっしゃる「『接遇』は見かけだおし」ってどういうことですか。

人と人は、心がこもっていれば気持ちは伝わり、わかり合えるものです。一生懸命やっていれば患者さんに伝わるし、逆にいい加減にやっていると患者さんはすぐに察します。要は、接遇という形から入っても中身がなければ患者さんには伝わりませんし、気持ちが通じ合うことはないと思っております。

○堂面先生にとって県病院はどんな存在ですか。

県病院は看護師の方々がとても暖かい。患者さん、その家族の方々に対してとても優しい。という印象を持っております。これは私の身近な人の経験から感じていることです。
これからも、患者さんやその家族の方々に心のこもった優しい対応を心がけてもらいたいですね。

【取材後記】

堂面先生の穏やかなイメージとは裏腹にレーシングライダーという意外な一面を聞いてびっくりしました。事故には気をつけてくださいね。

また、先生、スタッフの方々の心がこもった優しさあふれる表情が印象に残りました。

県病院ミュージアム

県病院内に展示している絵画を紹介します！！

画名：「フォーロ・ロマーノ」
作者：島田　戴造

この絵は、イタリアのローマ時代の遺跡をテーマに、作者が、1990年にスケッチ旅行でヨーロッパに行った時の印象を描いたものです。胡粉（貝殻から作られる白い絵の具）を使用した淡い光のベールがかかったような色彩が、幻想的な雰囲気を醸し出しています。遺跡の煉瓦が絵の具を盛り上げて描かれているような表現もあり、興味深いです。

放射線科スタッフや来院者の皆様にも、「待合が明るいイメージになった」と好評です。

本館地下1階放射線科51番待合前に展示していますので、是非ご覧ください。

ご案内

がん医療従事者研修

■と　き／平成24年3月13日（火）
19：00～20：00
■ところ／中央棟2階　講堂
■テーマ／「安全で安心な放射線治療について」
■対　象／医療従事者
■問い合わせ先／総務課管理係（担当：奥野）
TEL：082-254-1818
（内線：4272）

3月のがんサロン

■と　き／平成24年3月21日（水）
14：00～15：30
■ところ／新東棟2階　ラウンジ
■内　容／交流会
■対　象／当院に悪性腫瘍（がん）で通院または入院治療中の患者様及びご家族
■問い合わせ先／地域連携科
TEL:082-256-3562（直通）

※詳しくは県立広島病院ホームページへ。 県立広島病院 で 検索 （URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

外来診療のご案内

■診療受付時間
午前8時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

■休診日
土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始（12月29日～1月3日）

■紹介状持参のお願い
初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2，620円のお支払が必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなることがありますので、ご了承ください。

ワンポイント健康メモ
― 今年の花粉飛散予想と対策 ―

今年のスギ花粉の飛散は２月下旬頃と予想されています。スギ･ヒノキ花粉総飛散数は、大量飛散年であった2011年よりは、大幅に減少します。過去10年の飛散数平均と比較すると、全国的には約70％程度の飛散数になると予測されています。ただし、最近10年の飛散数自体が以前より増加傾向にあるので、例年通りの注意、早めの対策が必要と思われます。花粉のばく露を避けるための基本的な対策としては、以下のものが挙げられます。

①マスク、メガネを着用する。
②衣服・ペットなどについた花粉は玄関でシャットアウト。なるべく室内に持ち込まない工夫と努力を。外出したら、洗顔やうがいをしっかりしましょう。
③掃除はこまめに行い、掃除機の使用だけでなく、濡れ雑巾やモップによる清掃を行う。
④洗濯物は屋内に干す。
⑤衣類の素材は羊毛や毛織物は避け、ポリエステルや綿製品で起毛のないものを着用する。

花粉情報の要注意日としては、**晴れまたは曇りで、最高気温が高く、湿度が低く、やや強い南風が吹く日**などがあげられます。そのような日は外出を控えめにしましょう。また、特に**午後1時～3時頃**が飛散数が多い傾向にあります。環境省のホームページ（はなこさん）などでは、リアルタイムに花粉飛散数が閲覧できますので、これらの情報を活用することもおすすめです。

より強力な予防および治療法としては、医療機関を受信して、飛散開始2週間前ぐらいから内服、点鼻、点眼薬などによる治療を開始することが望まれます。

耳鼻咽喉科･頭頸部外科
部長　平位 知久

診療科だより 第16回

少し専門的になりますが…

消化器内科・内視鏡内科

今回は、消化器内科・内視鏡内科の隅岡主任部長に直撃インタビューです！！

はじめに、「消化器内科・内視鏡内科」について教えてください。

隅岡主任部長
すみおか

消化器内科、内視鏡内科と名称は分かれていますが、スタッフは互いに協力し合い、消化器疾患の診療に当たっています。消化器には肝臓、膵臓、胆のう、食道、胃、小腸、大腸があり腹部臓器の大半が対象となります。消化器がん（肝臓がん、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆のうがんなど）や肝炎、胆のう炎、膵炎、消化性潰瘍、大腸ポリープ、炎症性腸疾患などの診断および治療を、それぞれの専門医が行っています。

消化器内科・内視鏡内科では、どのような診療が行われているのですか？

消化器疾患の診断には血液検査をはじめ、上部内視鏡検査（胃カメラ）、大腸内視鏡検査、腹部超音波検査（エコー）、CT検査、MRI検査などの検査を行います。内視鏡検査は苦痛が伴いますが、苦痛を少しでも和らげるため当院では鎮静剤の投与や経鼻内視鏡検査も行っています。

治療は消化器専門医がそれぞれの専門分野を担当しています。肝疾患は北本部長が中心となりインターフェロンおよび核酸アナログを用いたウイルス性肝炎の治療、肝がんに対してはラジオ波凝固療法、放射線科と共同し肝動脈塞栓療法や放射線治療を行っています。

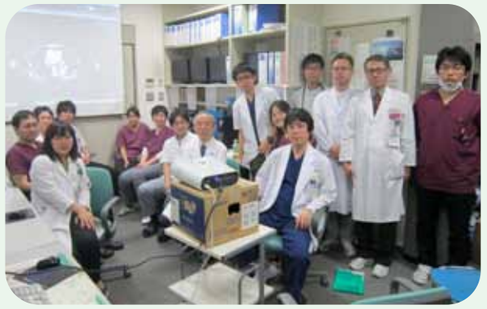
胆膵疾患は桒田部長、小道部長が中心となり、総胆管結石、急性胆管炎、急性胆のう炎に対する内視鏡治療や経皮的治療、胆のうがんや膵がんによる閉塞性黄疸に対しては内視鏡的減黄術を行っています。

消化管疾患は私と渡邊部長、赤木部長、平賀部長、平本部長が行っています。食道および胃の早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、早期大腸がんに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）を多数行っています。早期大腸がんに対しては先進医療であるESDにも積極的に取り組んでいます。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患は渡邊部長が中心となり、ヒュミラ、インフリキシマブなどの生物学的製剤を含めた薬物療法や白血球除去療法を用いた寛解導入療法と寛解維持療法を行っています。さらにカプセル小腸内視鏡やダブルバルーン小腸内視鏡を用いた小腸疾患の診断、治療にも力を入れています。

また出血性胃潰瘍などの消化管出血や胆石発作、急性化膿性胆管炎など救急疾患に対し、緊急内視鏡治療など迅速に対応できる体制をとっています。

最後に、消化器内科・内視鏡内科として心がけていることを教えて下さい。

病気の治療のためには正確な診断が必要です。消化器疾患の診断には血液検査をはじめ超音波検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査など種々の検査を総合して判断します。これら検査を効率よく行い迅速に診断できるように努めています。治療は各診療科と連携し、患者さんに最も合った治療を受けていただくように心がけています。



カンファレンス中の消化器内科・内視鏡内科の皆さんです。

次回は、麻酔科に直撃インタビューします。

外科医の独り言… no.6

― 医者の話はわかりにくい？―

最近、医療現場でよく使われる言葉に「インフォームドコンセント」という言葉があります。患者さんが病気になった場合、医師からその病状や治療法の十分な説明を受け、それを理解して納得したうえで治療を受けるというものです。説明だけではいけないのです。患者さんが理解して納得しなければいけないのです。一昔前は、医師からの説明もほとんどなく、あったとしても一方的な説明で、医師主導で治療法が決まり、患者さん側もお医者さんに“おまかせ”のことが多かったことを考えると隔世の感があります。

しかし、ここで一つの大きな壁（医師側に問題があるのですが）があります。言葉の問題です。ドイツ語、英語ではありません。同じ日本人なのに医師が病院で使っている単語が、患者さんには馴染みのない言葉ばかりなのです。国立国語研究所の調査では、国民の8割以上が、医師が患者に対して行う説明の言葉の中に、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしい言葉があると答えているそうです。すなわち医師がいくら一生懸命、時間をかけて説明しても難解な医学用語をそのまま使ったのでは患者さんは全く理解不能に陥ってしまうのです。おそらく多くの医師はできるだけわかりやすく話をしようと努力をしているのですが、まだ努力が足らないのでしょう。そういう私も患者さんにわかりやすく説明している自信はありません。なぜか？私の患者さんの中には私がした雑談はよく覚えていらっしゃるのですが、肝腎の病名が伝わっていないことも時々・・・。そこで最近良い本を見つけました。前出の国立国語研究所「病院の言葉」委員会が編集した「病院の言葉をわかりやすく」という本です。もちろん患者さんが医師の言葉を理解しようと読まれても結構ですが、本書は医療従事者に読んでもらうために書かれた本のようです。

では、患者さんはどうしたらよいでしょうか？説明を受けている途中でわからないことがあったらその場で質問すれば一番よいのですが、なかなかそれができないという話をよく聞きます。医師が質問できない雰囲気をかもし出しているのでしょうか。患者さんと話をしている時に患者さんはよくうなずかれますよね。医師はこれを見て、わかってらっしゃるんだな、と判断します。そこでおススメは、今の説明はわからなかったな、と思われたら首をクイッと右でも左でも傾ければいいのです。そうすれば医師にも伝わるのです。わかったふりをしてうなずいてはいけません。医師が見てくれなかったら振り向いてくれるまでクイックイッと。一度試してみてください。

消化器・乳腺・移植外科
板本敏行（いたもと　としゆき）

地域巡回講演会を実施しています！

地域連携科

県立広島病院では、住民の皆様に病気の予防や治療について、最新の情報や正しい知識を理解していただくための『地域巡回講演会』を行っています。県内の町内会、老人会、PTAなどの各種団体にご利用いただいており、好評を得ています。

開催申込みについては、県立広島病院地域連携科までご連絡ください。

※詳しくは県立広島病院ホームページへ 県立広島病院 で 検索

（URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

看護部だより

目の健康の維持・回復の手助けをさせていただいています。

眼科外来

私たちは、外からの情報を視覚を通して得ています。毎日の生活で“見る”ことは大変重要です。眼科外来では、お一人お一人の目の健康の維持・回復の手助けをさせていただいています。診察のほか、視機能検査、造影検査、レーザー治療、眼内注射、斜視・弱視などの視能矯正訓練や通院手術がおこなわれています。電子カルテ導入後は、病状については、コンピューター画面を使って、写真を見ながら、また患者さんやご家族と一緒に病状を確認していただきながら、説明をさせていただいています。

病診連携からのご紹介の方を含め、0歳～100歳を超える方まで幅広い年齢層の方が来院されています。眼科は診察室など暗室になっているところが多く、また多くの種類の検査があるため驚かれるかもしれません。スタッフ一同、安全に診察、治療、検査が受けていただけるよう努力してまいります。